

所属・資格 地球科学科・教授

申請者氏名 安井 真也

研究課題		浅間仏岩火山の爆発的噴火の実態-4-
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、浅間山仏岩火山で約 1.3 万年前後に起きた複数回の大規模噴火の実態を解明することを目的とする。仏岩火山は前掛火山の一つ前の活動ステージにあたり、広範囲に降下軽石や火砕流を堆積させたが、その噴火史や噴出物の層序は不明な点も多い。特に、小諸第 1 軽石流および第 2 軽石流の正確な分布や降下軽石との層位関係の把握は重要な課題である。そこで分布調査や境界部の土壌、堆積物中の炭化木を用いた年代測定を継続的に実施している。また、火砕流の流動・堆積機構を解明するため、広範囲の粒度分析や構成粒子の顕微鏡観察を行う。さらに、ピナツボ火山や箱根火山など国内外の噴火事例と比較し、仏岩火山噴火の規模評価を行う。令和 6 年度は分布調査を継続するとともに、規模比較にも着手する。
	研究の結果	本研究では、小諸第 1 軽石流とその後の小諸第 2 軽石流の堆積物の正確な分布の把握のため、分布調査と境界部の土壌や炭化木を探して年代測定を行う作業①を優先事項としているが、今年度も数カ所の堆積物から見出された黒色土壌と火砕流堆積物中の炭化木片について年代測定ができた。また火砕流の流動・堆積機構の実態解明のため、粒度分析を広範囲の試料について行い（作業②）、また構成粒子の顕微鏡観察と解析を行う作業③を継続して行っているが、今年度もそれぞれ数を増やしてデータを蓄積した。他の噴火事例と比較して規模の評価を行う作業④に関しては、箱根火山の 6.5 万年前頃の東京軽石を噴出した噴火について文献調査を行い、噴火推移や分布域について検討した。
	研究の考察・反省	今年度得られた浅間仏岩火山の火砕流堆積物の性質に関するデータは、過年度に得たデータとともに地形図に水平分布を落とし、年代と層序等の確認作業中である。作業②で得られた粒径分布データから細粒火山灰の割合を出してマッピングをし、作業③の顕微鏡観察から鉱物組み合わせ結果を同じくマッピングした結果、推定火口からの方位による違いが見え始めている。規模が大きく、同一の露頭で層位的上下関係が見られる場合が少ないことにより、仏岩火山の火砕流堆積物の地質調査は容易ではない。現時点では結果をまとめて公表するには至っていないが、次年度も検討を継続予定である。なお、噴火規模は異なるが噴火様式にいくつか共通点がある浅間前掛火山の大規模噴火に関しては研究報告を行った。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 安井真也・高橋正樹・金丸龍夫・長井雅史 浅間前掛火山12世紀噴火の推移と噴火様式 日本地球惑星科学連合2024年大会 SVC31-14 2024年5月29日/オンライン	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	安井真也「浅間火山の活動史と噴火メカニズム」明治大学黒耀石研究センター主催シンポジウム『火山災害考古学:地域社会の罹災とそのレジリエンス』2024年6月29日/明治大学駿河台キャンパスグローバルフロント	